

2023
ズバリ! 的中



古文

学習院大学

入試問題本文が一致、かつ問い内容が複数個所の中

入試問題

2月11日実施 コア、プラス方式
二〔問題〕(二)、(四)

河合塾

高3 1期 高3古文TN
第七講 問三、問四

二 次の文章は、土佐(高知県)から都への船旅を記した紀行文「土佐日記」の一節です。土佐の国府を出発して四国の南海岸沿いを東に進み、東端の「御戸(室戸岬)」岬を目前にして、天候が悪く、長らく止められています。これを読んで、後の問題に答えなさい。(配点三十五点)

十五日。今日、小豆粥(あずきかき)を食ふ。口惜しく、なほ日の悪しければ、みざるほどにせ今日二十日あまりへぬる。いたづらに日をふれば、人々海をながめつつぞある。女の童(わらわ)のいへる、
立てたつればまたあたる吹く風と波とは思ふとちにはやあらむ
いふかひなき者のいへるには、いと驚つかはし。

十六日。風波やまねば、なほ同じころに泊まれり。ただ、海に波なくして、いつしか風波といふ聲(こゑ)らむとのみなむ思ふ。風波とみにやむべくもあらず。ある人の、この波立つを見て詠める歌、
「猶(なほ)だにも御(ご)かめ方(かた)といふなれど波(なみ)の中(なか)には雪(ゆき)を降りける。
さて船に乗りし日より今日までに、二十日あまり五日にたりけり。
十七日。くもれる雲(くも)なくなり、晩月(ばんげつ)夜(よ)いともおもしろければ、船を出だして漕(こ)ぎゆ。この間に雲のうへも海(うみ)の底(そこ)も、同じごとくなむあり。むべも昔(むかし)の男(おとこ)は、「禰(ね)は穿(う)つ波(なみ)の上(うへ)の月(つき)を、船(ふね)は庄(しやう)ふ海(うみ)のうちの天(あま)を」とはいひけむ。聞きされに聞けるなり、またある人の詠める歌、
① 水底(みづそこ)の月のうへより漕(こ)ぐ船(ふね)の棹(しやう)にさはるは桂(けい)なるらし
これを読んで、ある人のまた詠める、
② 影(かげ)見れば波(なみ)の底(そこ)なる久方(くわがた)の空(そら)を思(おも)わたるぞわびしき
この間に雨(あめ)降りぬ。いとわびし。
かくいふ間に夜(よ)ややく明けゆくに、楫(こ)取り、一黒(ひとくろ)き雲(くも)にいかに出(い)で来ぬ。風(かぜ)吹(ふ)きぬべし。御船(ごせん)返(かへ)してとて」といひて船(ふね)停(とど)める。
十八日。なほ同じころにあり。海(うみ)荒(あ)げれば、船(ふね)出(い)ださず。この泊(とど)まり、遠(とほ)く見(み)れども漕(こ)ぎ見(み)れども、いとおもしろし。かかれども、苦しければ何(なに)とも思(おも)はず。男(おとこ)どもは、心(こゝろ)やりにやあらむ。濃霧(のうき)などいふべし。船(ふね)出(い)ださてたづられば、ある人の詠める、
磯(いそ)ふりの寄(よ)する磯(いそ)には年月(としげ)をいつともわかぬ雪(ゆき)のみぞ降(ふ)る
この歌はつねにせぬ人の言(こと)なり。また人の詠める、
風(かぜ)による波(なみ)の磯(いそ)には潮(うしほ)も春(はる)も知らぬ花(はな)のみぞ咲(さ)く
この歌どもを、すこしよろしと聞いて、船(ふね)の長(なが)しめる磯(いそ)月(つき)日(ひ)ごろの苦しき心(こゝろ)やりに詠(よ)める。

〔練習問題〕
(7) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

十六日、風波やまねば、なほ同じ所にとまれり。ただ、海に波なくして、いつしかみさきといふ所(ところ)わたらむとのみなむ思ふ。風波とにやむべくもあらず。ある人の、この波立つを見てよめる歌、
猶(なほ)だにも御(ご)かめかたぞといふ。なれど波(なみ)のなかには雪(ゆき)ふりける
霜(しも)だにもおかぬかたぞといふ。なれど波(なみ)のなかには雪(ゆき)ふりける
さて、船(ふね)にのりし日よりけふまでに二十日あまり五日にたりけり。
十七日、くもれる雲(くも)なくなり、晩月(ばんげつ)夜(よ)いとも [] ば、船(ふね)をいだしてこぎゆ。このあひだに、雲(くも)のうへも海(うみ)のそこもおなじごとくになむありける。むべも、昔(むかし)のそとは、「禰(ね)は穿(う)つ波(なみ)のうへを。船(ふね)は庄(しやう)ふ海(うみ)のうちの天(あま)を」とはいひけむ。聞きされに聞けるなり。また、ある人のよめる歌、
③ 水底(みづそこ)の月のうへよりこく船(ふね)の棹(しやう)にさはるは桂(けい)なるらし
これを読んで、ある人のまたよめる、
かげ見れば波(なみ)のそこなるひさかたの空(そら)を思(おも)わたるわかれわびしき

〔出典〕
「土佐日記」
○なは
○いづし
○わたる
○晩月夜
○いと
○むべ
○穿つ
○かへ
○ひさかたの
○わびし

